

学校を利用して

地域活動の輪を広げましょう

地域活動の核となる小学校を利用し、子供たちを巻き込んで親世代への参加推進に努めましょう。また積極的に学校・地域教育コーディネーターへアプローチして、地域と学校のつなぎ役を務めましょう。そして、自分が培った能力や経験、人脈を最大限に活用して地域貢献にも取り組みましょう。



新潟市では地域教育コーディネーターを平成23年4月1日現在、小学校96校、中学校43校の合計139校に配置しています。地域と学校とを橋渡しをしながら、共に大きな力を発揮することを目指しています。

私たちが税金で賄われている学校と関わる時には、家族に学校に通う子供がいてもいなくても、地域住民は自分たちの学校という意識を持つべきです。その上で、次の段階として地域住民が日常的に学校に出入りするようになれば、地域と学校が互いをよく理解することにより連携がより上手くできるでしょう。

学校の生徒とその親や祖父母と地域住民に地域の企業などが加わってネットワークを広げながら、それぞれの能力を高める活動をするには最適な場所です。

提言の背景となった事業

- ・ 地域のおしゃべりコミュニケーション～防災について考えよう！～
- ・ みんなで集おう！地域コミュニティ
～地域に広げようコミュニティのWA～

上記2事業の会場は学校を使用しました。

地域活動の場は様々考えられますが、公民館やコミュニティセンターなどと並んで公立学校は特に核となる施設です。コミュニティ協議会が主に小学校区単位で設立されていることから、特に小学校は活動拠点としての利用価値は非常に高いです。